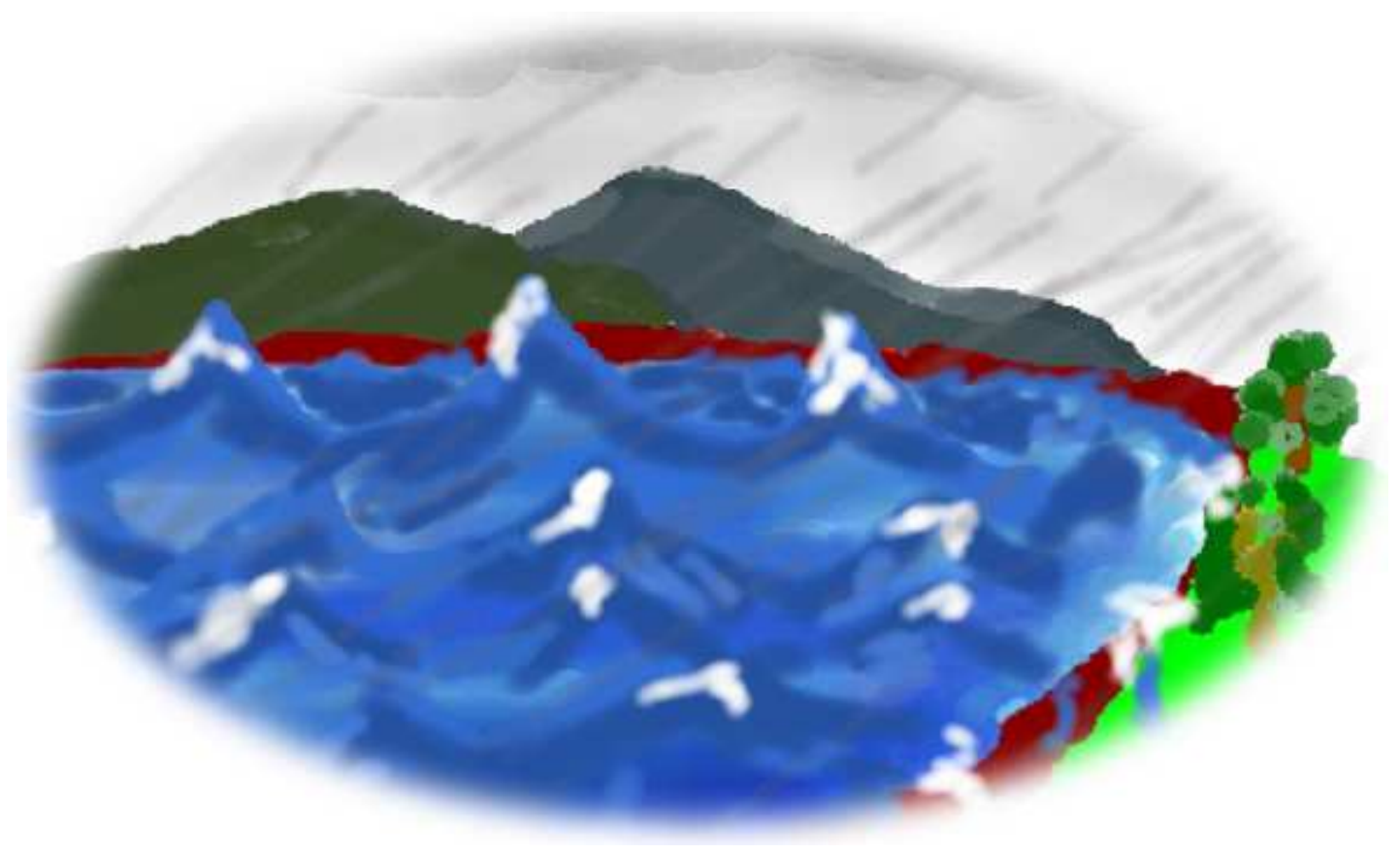
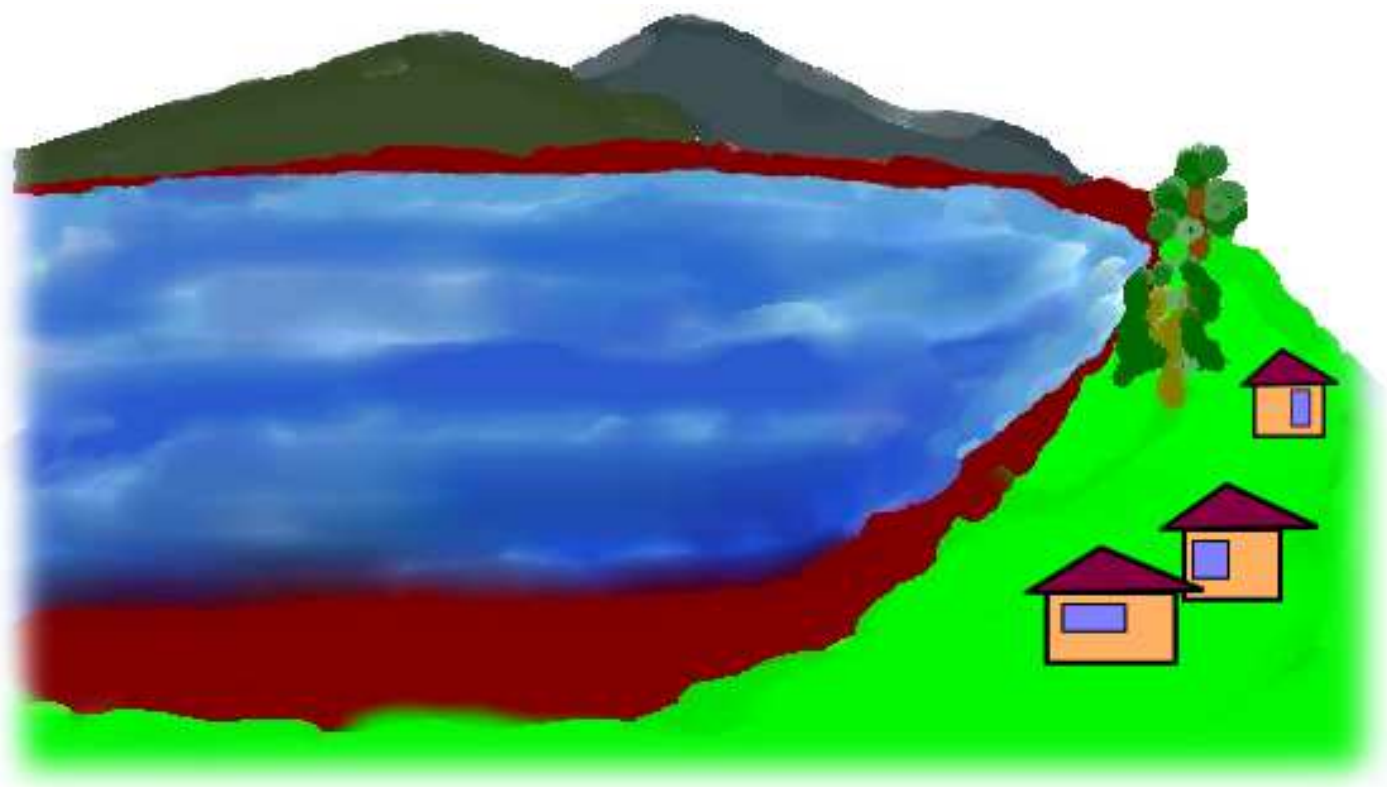


嵐と湖

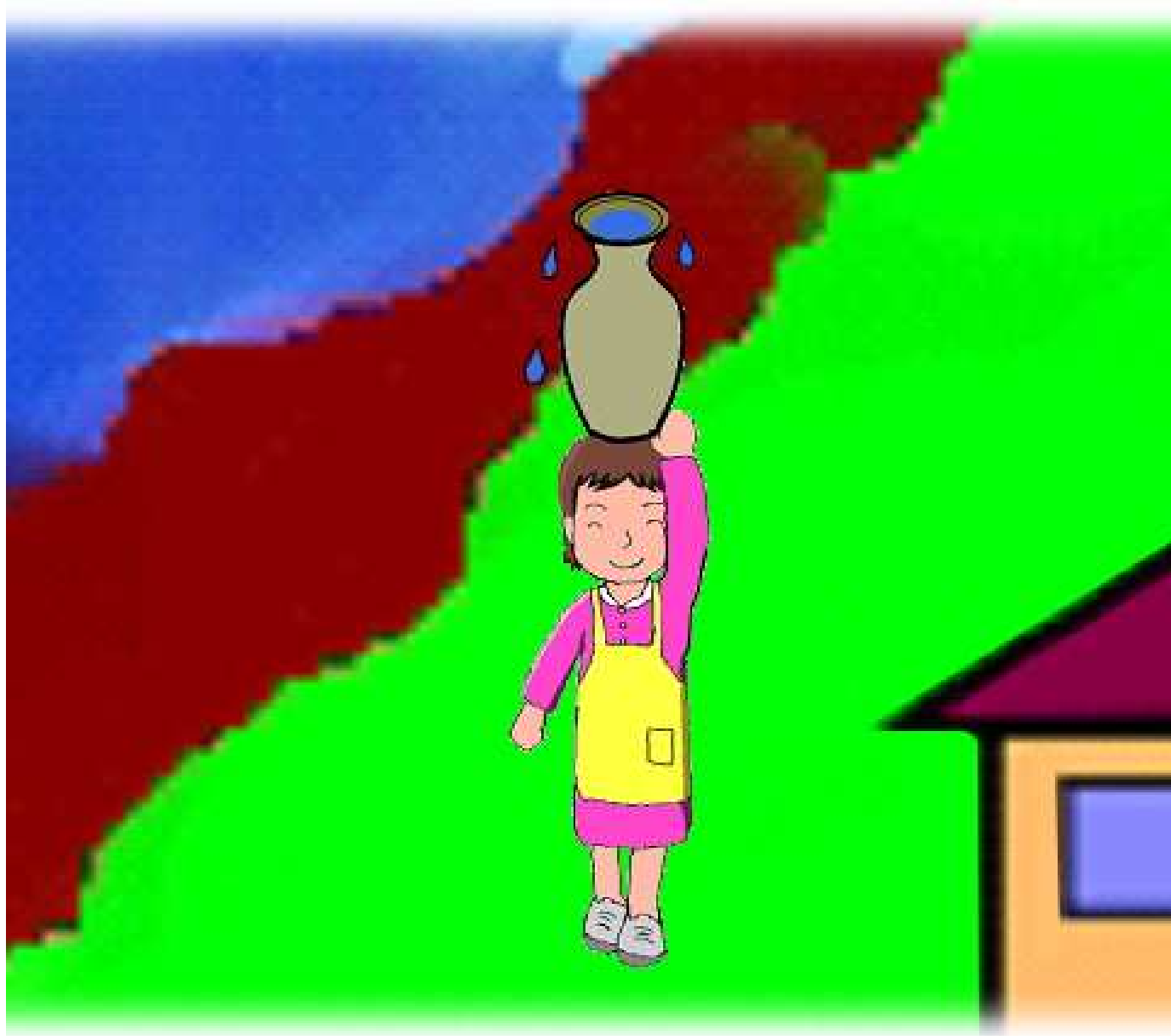


東郷 潤

遠い宇宙のある星に、大きな湖と小さな村がありました。



湖は村人たちの生活を支えています。
湖なしで生きていくことは出来ません。



ところが最近、湖の水が時々毒になる
のです。



湖の毒で、子どもやお年寄りがもう何
人も死んでしまいました。

湖には何が有るのでしょうか？



もぐって毒の原因を探す人もいます。

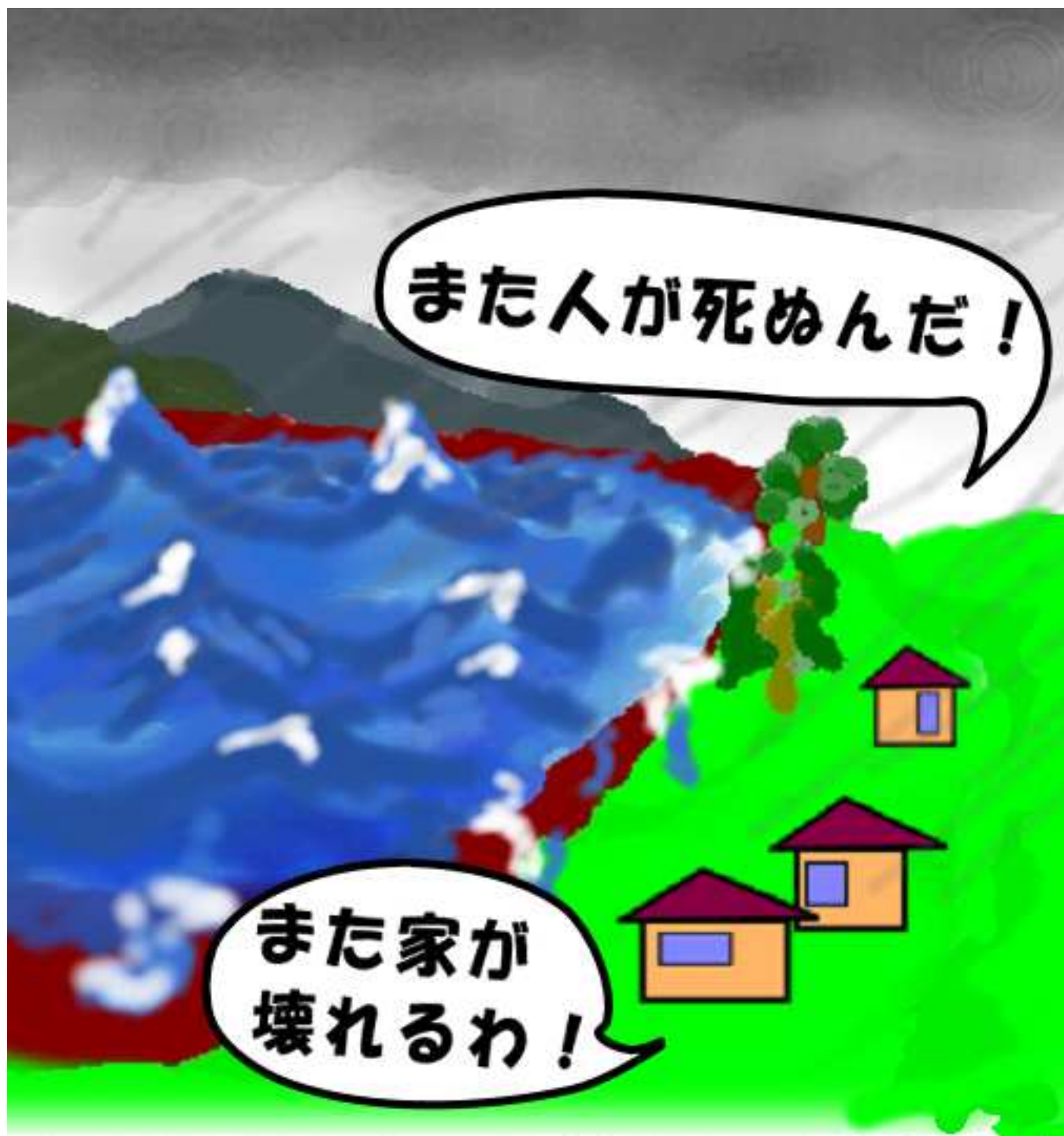
でも、水はにごっているし、冷たいし、湖は広いし、何も見つけることは出来ません。かといって湖を離れて生きていくことも出来ません。



しかもこの頃、村は、しょっちゅう嵐に襲われるのです。これでもか、これでもか、と不幸が続きます。まるで村は、呪われているかのようです。

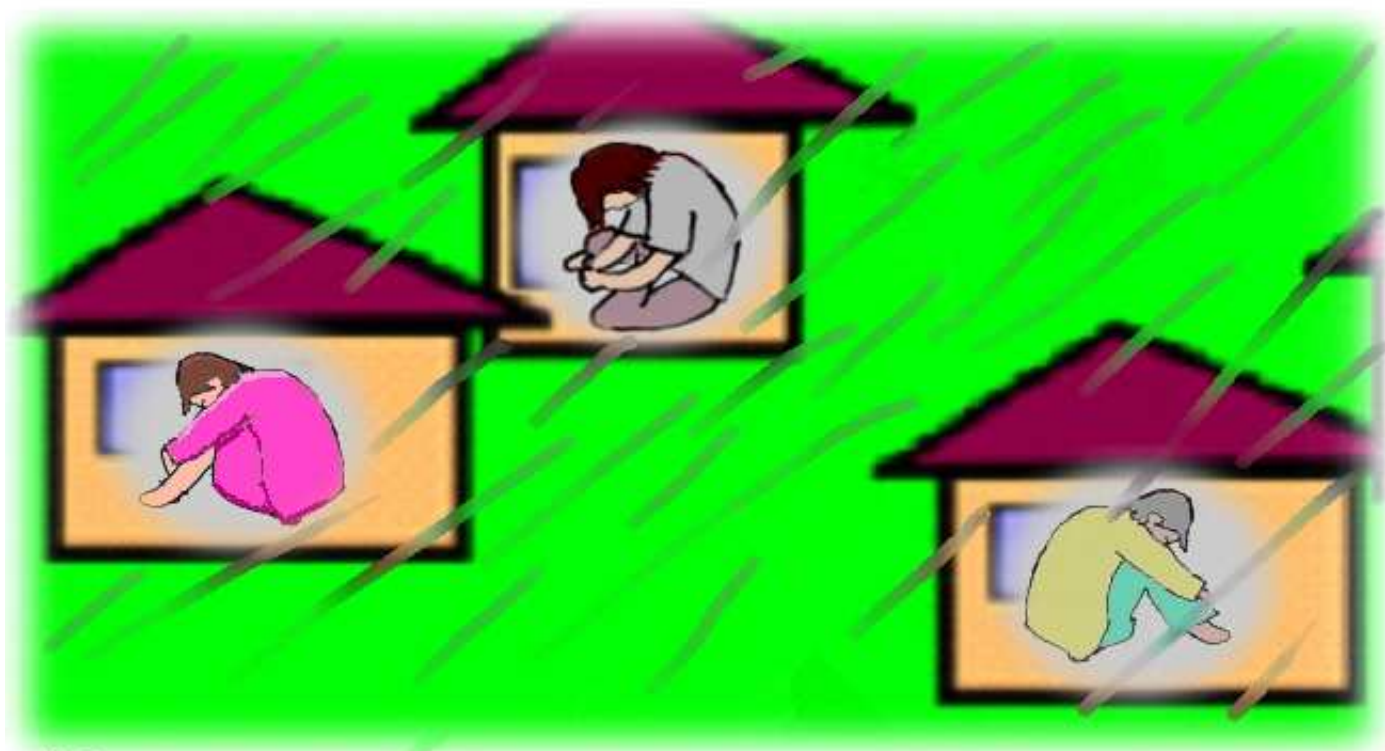


ああ、また嵐が来ました。湖は大荒れです。



みんな怖くて目をつぶって震えています。
みんな、みんな泣いています。

ああ、どうして俺たちは
こんなに不幸なんだろう！



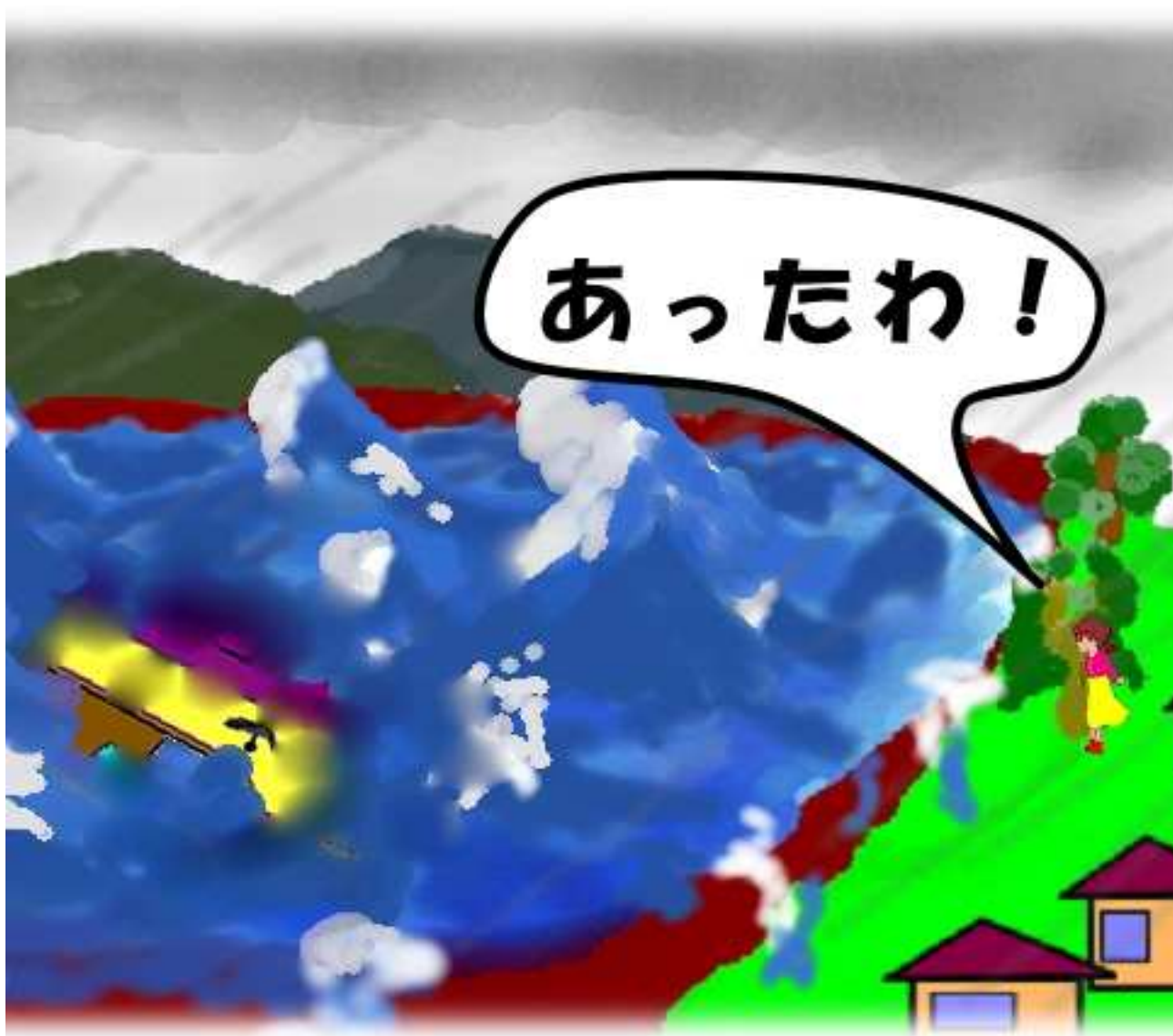
いっそのこと、
死んでしまいたい！

ああ、もう
何もかも嫌だ！

そんな中、一人の少女が、湖を眺めていました。



強い風で、波がすごく大きくなりました。
——あ、一瞬、湖の底が見えました。
た。



嵐が去りました。

ねえ、みんな、
聞いて！
あそこに船が沈没
しているの！
きっと毒の原因よ！

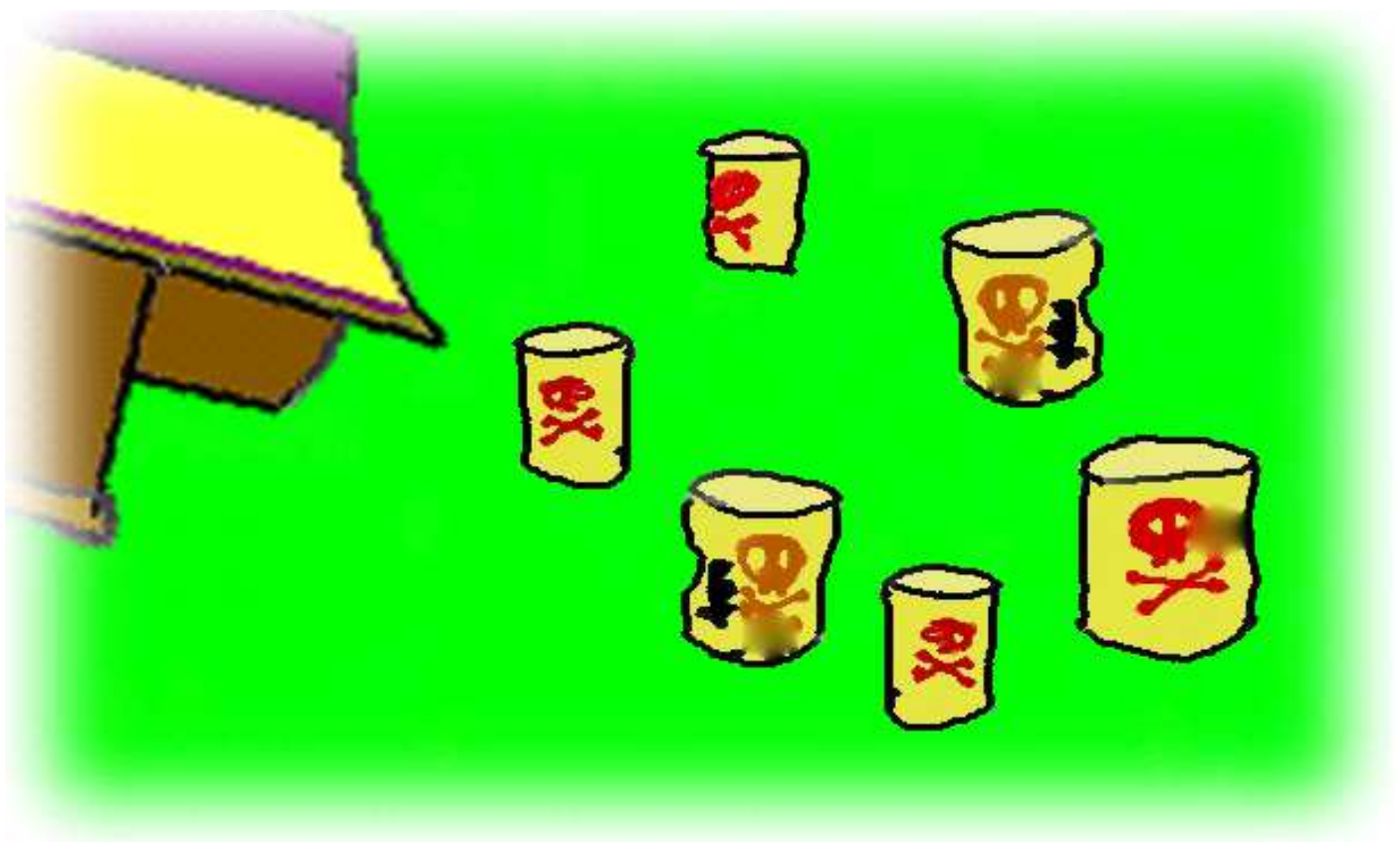


みんなで、少女が見た湖底にある船を
引き上げました。



船の中から毒の缶がたくさん出てきました。小さな缶はいくつか穴が開いて空っぽです。

これが、湖の水が時々毒に変わる原因だったのです。



一番大きな缶には、まだ毒の中身が一杯つまっています。でもこの缶も腐って、もう少しで穴が開きそうです。



**もし、嵐が来なければ…、
もし、嵐が小さくて
湖の底が現れなかったら…、
もし、湖の底が現れたとき
全員が目をつぶっていたら…、
毒を見つけるチャンスを
失っていた。**

**そしたら村は
全滅だった！**



ねえ、君。

**嵐のときこそ、
目を開けて。**

あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることが出来ます。

www.j15.org

©Jun Togo 2005